

医療機関の地域貢献に関する評価指標の検討

景 山 愛 子

要 旨

本論文は、公的資金を多く必要とする日本の医療機関の地域貢献度の評価について検討するため、既に運用されている評価制度等の評価項目などを調査し、地域との連携などの項目が設定されていたのは認証評価のみであることを明らかにし、患者満足度調査も地域との関わりを測る重要な指標の一つであることを再確認した。医療機関による地域貢献は、まだ整理されておらず、評価尺度も明確ではない。そのようなところ、例えば、企業のCSR評価項目やSDGsの枠組みの中で設定する目標などは、医療機関の地域貢献の評価指標を検討する上で有益であることもわかった。

キーワード：医療機関（Health care Organization）、地域貢献（Local community contribution）、評価指標（Evaluation Indicator）、CSR（Corporate Social Responsibility）、SDGs（Sustainable Development Goals）

I はじめに

医療機関は、常に、患者や地域に寄り添いながら存在し、医療サービスを提供する組織である。近年ならコロナ禍において、地域における医療機関の存在意義は一層高まり、各地域に必要とされる医療供給体制を構築し、円滑な地域医療を担う役割を確実に担ってきた。また、厚生労働省により2025年を目指して、各地域における医療需要や病床の必要量が満たされ、望ましい医療提供体制の実現が掲げられた『地域医療構想』が策定され、各医療圏の

体制を強化または既存の機関間の統廃合などの取り組みも全国各地で始まっている。

日本では、「医療・介護が地方創生に一定の効果をもたらす」とも言われる地域もあり、「医療・介護はあくまでコミュニティの上に成り立つ上部構造」として、特に「地方の中小病院は地域と運命共同地」[日本医事新報社, 2015]と言われることもあるほど、地域に影響を与え、地域と共存する組織体と考えられている。

さらに地域医療を継続することは、医療を提供するだけでなく、多くの専門職等も含めた職員を雇用し、地域還元を行い、施設の新築や改築または修繕等があれば地元企業に一定の収益をもたらすような、「医療のみならず雇用機会の創出や地域経済活動にも波及効果」[日本農村医学会 (2018)]を生むこともある。医療機関は、どんな小規模な地域や僻地においても必要とされ、また、機関の規模が大きくなると、都道府県の境を超える医療圏を形成して様々な影響を及ぼすこともあり、雇用や地域の活性化において中核的な存在になることもある [坂口・森 (2018)]。

医療機関は公益性が高く、上述したように、地域と共存するものとして地域密着型という表現がされるように、地域性が高い種類の業種である。

また、医療機関の多くは公的資金が投入されている病院も多く、その場合、地域に与える影響や貢献は、近年企業が社会公的資金や地域の資源を使用することに対して当然、評価され、公表されるべきである。

このような状況を鑑み、本研究では医療機関による地域への貢献度の評価について高い関心を持ち、まずは医療機関による地域貢献を評価する指標が現在、どのように存在するかを3つの評価制度等を整理し、今後の評価指標の検討に必要な項目の参考となるものを確認して、明らかにする。

II 医療機関に対する様々な評価

1. 日本医療機能評価機構による認証評価

近年、医療機関も様々な目的に基づいて評価を受けている。その中の一つ

に認証評価がある。

日本の医療機関の認証評価を行う団体のうち、最も認証数が多いのは、公益財団法人日本医療機能評価機構である。制度名は病院機能評価事業において行われており、1997年から開始され、2023年2月の時点では全国の全病院数8,182病院のうち、認定されたのは2,015病院で、認定率は24.6%であった〔日本医療機能評価機構 HP〕。

認証制度は他にも国内では、一般財団法人日本品質保証機構による ISO 9001 や日本医療教育財団による外国人患者受け入れ医療機関認証制度（Japan Medical Service Accreditation for International Patients; JMIP）があり、海外においてもアメリカの JCI（Joint Commission International）があり〔厚生労働省 a〕、それぞれ認証された病院は一定数あるが、本節では日本医療機能評価機構による評価内容について確認をする。

日本医療機能評価機構における評価項目は HP を閲覧すると明らかであるが、機能種別の項目により運用されており、例えば一般病院も1から3に分けられている。ここでは、「主として日常生活圏域等の比較的狭い地域において地域医療を支える中小規模病院」として区分されている一般病院1を対象として、評価項目を確認する〔日本医療機能評価機構 HP〕。

まず、大きな区分として、一般病院1には3つの領域があり、「第1領域 患者中心の医療の推進」、「第2領域 良質な医療の実践1」、そして「第3

1.1	患者の意思を尊重した医療
1.2	地域への情報発信と連携
1.3	患者の安全確保に向けた取り組み
1.4	医療関連感染制御に向けた取り組み
1.5	継続的質改善のための取り組み
1.6	療養環境の整備と利便性

図表1 一般病院1 第1領域における中項目

出所：公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価
機能種別版評価項目 3rdG: Ver. 3.0 評価項目一覧
(主な変更点) 一般病院1 (2022)

領域「良質な医療の実践2」がある。さらに各領域には中項目・評価の視点、評価の要素などが記載され、例えば注項目・評価の視点においては、以下のようなカテゴリがあり、その中にさらに細かい評価の視点が設定される。

中項目では、一般病院1が地域と密接にある中小規模病院を含むことから、地域に関する評価項目として、「地域への情報発信と連携」が設定されており、他にも患者に直結する項目が並んでいることが特徴である。ただし地域との関連として、患者との関わりから設定される、様々な項目を、地域住民との関わりの項目として地域への貢献の範囲に含めることについて検討される必要がある。

2. 独立行政法人福祉医療機構による貸付前確認事項

次に本節では福祉貸付制度と医療貸付制度を提供している独立行政法人福祉医療機構（以下、WAMという。）が融資の判断を行う際に実施する具体的確認事項を参考とする〔独立行政法人福祉医療機構 HP〕。

そもそも、WAMは、例えば医療機関の経営の持続可能性を考える視点として、「将来の医療サービスの実効性を担保する側面」と「財務・金的基礎に係る側面」の2つを挙げており、ここでは持続可能性の評価項目として、まず、前者に関しては「地域の医療ニーズ、医療政策、地域医療計画等に適合しているか」、「医療機関の有する機能が十二分に発揮されているか」、「経営資源の投入について選択と集中の視点が適切かどうか（特に中小病院の場合）」が、次に後者に関しては「事業の持続可能性の観点から収支・財務状況を分析」を行い、損益の側面において、「自己資本を毀損することなく、財務内容の充実が図られているか」とキャッシュフローの側面において、「支払期限の到来した債務に対して支払能力があるかどうか（資金繰り）」を重視する。

その視点に基づいて、WAMは医療貸付の借入申込を受理するまでに、以下の確認事項について評価及び確認を行う。各事項には、より細かい事項が設定されているが、貸付の判断を目的としているため、医療面よりも経営状

態に重点が置かれた内容である。当然、返済能力を確認するために、以下の図表2にあるように、ウの財務及び収支状況に関して現状の運営状況や資金計画の妥当性を検証するために財務データを用いながら、カの人材確保のところでは、職員の確保及び教育・研修計画やスタッフの離職率と定着についての取り組みを確認したりと、非財務データも用いることが特徴である。

ア.	計画に至る背景等
イ.	行政手続
ウ.	財務及び収支状況
エ.	建築計画
オ.	事業計画及び資金計画
カ.	人材確保
キ.	収入支出・償還計画
ク.	担保、保証人
ケ.	その他

図表2 WAMが医療貸付のために行う主な具体的確認事項

出所：独立行政法人福祉医療機構 HP より。

3. News Week World Best Hospitals

英文雑誌のニューズウィークは、5年前から世界中の病院のランキングを評価しており、現在は28か国の2,300以上の病院を対象としている。そこでは、主に4つの指標が評価の基礎となっている [NewsWeek HP]。

4つの指標とは、医師や看護師を含む院内の専門職や事務の管理職に行うピアオンライン調査（50%）、患者の経験としての患者満足度の調査（14.5%）、次にホスピタル・クオリティ・メトリクス（Hospital quality metrics）という、例えば治療のためのケアの質、患者の安全性、衛生対策、順番待ちの時間などのデータが含まれるもの（29%）、そして、病院でPROMs（Patient Reported Outcome Measures）に関するオンライン調査の結果が使われている（2.5%）。PROMsは機能的なウェルビーイング度やQOLへの理解を評価した患者が回答する標準的で有効な質問による調査である。このラン

キングは、各病院の財務的指標や地域との関わりを示す明確な指標は用いられておらず、非財務指標により構成された評価基準であるが、患者満足度は地域住民の反応であることから、地域との関わりを表す指標の一つでもあり、PROMs は、いわば地域の健康度を測るものであり、医療機関が適切に機能しているかを調べる一つの尺度であることから、地域との関わりを表す指標として考えてもよいだろう。

Ⅲ 地域貢献にかかわる評価

1. 企業の社会貢献に関する評価

近年は企業も様々な地域貢献活動を行っており、その種類は多岐に渡る。企業に関しては地域貢献は社会貢献と表現され、企業の活動が特定の地域だけでなく、社会全般に及ぶ前提で幅広い利害関係者に対して行うことを想定した活動が行われている。それらの活動の目的の1つにCSR（Corporate Social Responsibility）がある。CSRは企業の社会的な責任を意味し、社会の利害関係者に対して行う責任行動が評価される。

本節では東洋経済新報社が行う「東洋経済 CRS 調査」におけるCRS企業ランキングの評価項目一覧を参考にする [東洋経済新報社HP]。

CSRの評価は、企業が存続することを前提とする視点で行うものであり、評価項目は、「人材活用」、「環境」、「企業統治」、そして「社会性」という項目があり、社会（地域）貢献に関しては「社会性」の評価項目が参考になる。評価項目は「社会性」に関しては32項目あり、それぞれに得点がついて、87点が満点である。最も配点が高いのは「社会貢献活動支出額」の評価で6点、次が「NPO・NGO等との連携」、「サステナブル調達の実施」、「社会課題解決ビジネスの取り組み」、「ボランティア休暇」、「ボランティア休職・青年海外協力隊参加」、「プロボノ支援」、「自然災害・パンデミックへの支援」が4点で、残りは3点か2点である。以下に評価項目一覧を示す。

	得点	評価項目
1	2	消費者対応部署の有無
2	2	社会貢献担当部署の有無
3	2	商品・サービスの安全性・安全体制に関する部署の有無
4	6	社会貢献活動支出額
5	4	NPO・NGO等との連携
6	3	ESG情報の開示
7	2	投資家・ESG調査機関との対話
8	2	消費者からのクレーム等への対応マニュアルの有無
9	2	同クレームのデータベースの有無
10	3	ISO 9000Sの取得状況(国内・海外)
11	3	ISO 9000S以外(独自等)の品質管理体制
12	2	地域社会参加活動実績
13	2	教育・学術支援活動実績
14	2	文化・芸術・スポーツ活動実績
15	2	国際交流活動実績
16	4	サステナブル調達の実施
17	2	サステナブル調達の取り組み事例
18	2	取引先に対する基本方針
19	2	紛争鉱物の対応
20	2	SDGs目標への意識
21	4	SDGs 17の目標達成基準
22	3	SDGs 17の目標対応状況
23	4	社会課題解決ビジネスの取り組み
24	2	海外での課題解決の活動
25	4	ボランティア休暇
26	4	ボランティア休職・青年海外協力隊参加
27	1	マッチング・ギフト
28	3	ボランティア休暇等の社員への周知
29	3	社員向けの社会課題解決への関心を高める取り組み
30	4	プロボノ支援
31	2	CSR関連の表彰歴
32	4	自然災害・パンデミックへの支援

図表3 2023年版東洋経済 CSR 評価項目一覧 「社会性」

出所：「2023年版東洋経済 CSR 評価項目一覧 項目名・評価得点・ポイント」

企業のCSR活動は、医療機関のように医療サービスの提供という一つの軸に基づいた地域との関わりとは異なり、より広い社会全般に対する視点で評価項目が設定されていることが特徴である。しかし、地域との連携や何ら

かの関わりを持つようとする取り組みが認められる項目部分（1、2、3、4、8、9、12～18、20～23、29など）が多くあり、今後、医療機関の地域貢献に対する評価指標の検討をより深めていくためには有益な情報であると考えられる。

2. 医療機関の認証評価に見られる地域貢献に関する評価

前章で確認した日本医療機能評価機構における評価項目においては「公益財団法人日本医療機能評価機構 HP」、「1.2 地域への情報発信と連携」という区分の中で、さらに3つの中項目が設定されており、それぞれに評価の視点がある。この評価の視点を参考にすると、まず、「1.2.1 必要な情報を地域等へわかりやすく発信している」という中項目については、「病院の提供する医療サービスや実績などの情報を患者や医療関連施設等に発信していることを評価する」という評価の視点がある。この視点について、さらに評価の要素として、以下の3点が挙げられており、これらの内容はウェブページを開設する医療機関では、当然に行っているものである。

- 病院の提供する医療サービスの広報に関する組織体制
- 情報の定期的な更新
- 診療実績の発信

次の中項目は「1.2.2 地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携している」かであり、その評価の視点は「地域の医療の状況やニーズを把握し、医療関連施設等との連携を図っていることを評価する」とある。この視点における評価の要素は以下のとおりである。

- 地域の医療関連施設等の状況把握
- 地域の医療関連施設等との連携
- 施設間の紹介・逆紹介への対応

最後の中項目は「1.2.3 地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている」であり、評価の視点は「患者・地域住民や、地域の医療関連施設等に向けた教育・啓発活動が病院の役割・機能に応じて実施されているこ

とを評価する」ことであり、評価の要素は以下のとおりである。

- 地域の健康増進に寄与する活動状況
- 地域の医療関連施設等に向けた医療知識や技術等に関する研修会や支援の実施

以上の評価の中項目は、どれも患者や地域住民にとって医療との関わりがそれぞれに有益となるよう設定されていると考えることができるが、特に医療サービスの提供に最も関連があり、また医療機関の収益性にも関係する2番目の「1.2.2 地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携している」が最も重要と思われる。

尚、これらの評価は中項目に対して「S、A、B、C」の4段階で評価が行われており、Sが「取り組みが秀でている」場合、Aは「適切に行われている」場合、Bは「一定の水準に達している」場合、Cは「一定の水準に達しているとはいえない」場合に分けられている。すなわち、実行の有無を確認しているのに留まり、その効果までは確認できていないことが課題である。

3. SDGsの枠組みに沿った地域との連携

SDGs (Sustainable Development Goals) は様々な視点からあらゆる組織において導入されているが、例えば医療機関においても地域医療の視点から、地域との関わりをSDGsの枠組みによって強化するという、様々な取り組みが行われている。

この少子高齢化の時代においては、医療機関の使命は地域社会との関わりが一層強くなることから、医療機関の持続可能性は組織単体だけのものではなく、地域全体に影響を及ぼすものとして評価されるべき可能性を持っている。実際に、医療機関の中にはSDGsの各目標を達成するところに地域との関わりを重視するところも見られている。

外務省が毎年、表彰を行うジャパンSDGsアワードを医療機関で初めて受賞した群馬県の佐藤病院の院長は、SDGsの導入は「既存の取り組みに足りないものを付け加え、より目標を明確にする形で進めて」いくものであり、

医師も SDGs に取り組むことで地域に良い影響があると述べている [MIRAI PORT HP]。実際、佐藤病院は産婦人科であるため、全年齢層の女性に関連する SDGs に関する目標を設定し、地域との共存環境を作っていることから、それら一連の取り組みと、その目標達成度を評価することには地域的にも意義があると考えることができる。

他にも、医療や福祉と SDGs を結びつけるものとして、地域包括ケアシステムとの融合がある。

岐阜県の和光会は地域医療・介護・福祉・障害・子育てサービスを地域に提供する職員数1600名規模のグループである [日刊工業新聞 (2021)]。和光会では2020年から本格的に既存の地域包括ケアシステムと連携させて SDGs に取り組んできており、特に Goal. 3、4、5、8、11、12、13、17 に注力してきた。その方法はこのゴールに合わせて組織内の担当部署を割り当て、そこから、取り組みを具体化し、グループごとに活動を共有しながら、目標達成に向けて行動するものである [和光会グループ HP]。

和光会は2030年までに上記の8つの Goals を組み合わせた課題カテゴリー

図表4 和光会グループによる SDGs への取り組み内容例

課題カテゴリー	取り組み例
医療・介護・福祉事業	地域包括ケアシステムの増強、医療と福祉の総合力向上。
環境・資源対策	グループ内での食品循環（食品ロス対処）、ペットボトルキャップ回収によるワクチン支援、照明の LED 化、エコマーク・グリーン購入法適合商品の購入促進。
健康経営	多様な働き方を実現する体制や制度の整備、職員本人、家族、地域の健康づくりに貢献。
人材育成	認定こども園の運営による子どもたちの生きる力を育てる、職員のキャリアアップ、シニアや外国人、障がい者の雇用促進と育成、介護人材の発掘と育成
地域貢献	介護・認知症・フレイル予防教室の開催や、地域清掃、祭事の開催、職員の地域行事の開催、職員の地域行事への積極参加などによる「まちづくり」への積極的取組み、誰一人取り残さない地域社会の実現。

出所：和光会グループ「地域とともに。Smile 和光会2030」の取り組み」

を設定して、「地域とともに持続可能な笑顔あふれる未来社会の実現に貢献」するとして各課題に取り組んでいる。

和光会の図表4にある課題カテゴリーの設定は地域と共存し、地域に貢献し続けるという考えに基づいており、課題カテゴリーの中に「地域貢献」とあるが、このSDGsへの取り組み全体が、まち全体の成長に関わっていく将来への方向性を示すものとして、重要な目標であり、SDGsを地域貢献度の評価の項目として扱うことが可能ではないかと考える。

IV おわりに

本論文では、医療機関による地域との関わりとしての地域貢献を評価する指標を検討するために、既存の評価制度等を取り上げ、その評価の体系において地域との関連性を考慮する区分や項目がどれだけあるかを確認した。

制度的には評価や審査の目的に合わせて、評価項目が設定されるため、地域との関わりが質問項目として含まれるものとそうでないものがあった。しかし、患者満足度を調べる評価においては、患者満足度は地域住民の声でもあるため、地域との関わりを表す結果として重要な一指標であることを再認識した。また、医療機関の関わりの成果としての地域のウェルビーイングの度合いやQOLの理解も健康への意識を測る上では重要な指標であることを確認できた。

本稿では、さらに、地域貢献を積極的に行う企業のCSR評価の「社会性」の項目を参考にした。その中には、本稿においても取り上げたSDGsに関する項目もあり、SDGsへの取り組みが社会や地域との共存や貢献を考える取組みに含まれるものと認識できた。

本稿では、調査の対象が十分とは言えず、医療機関の地域との関わりや貢献について、種類や範囲を決めるような整理をすることができなかった。

しかし、地域全体に医療が行き届いていること、公的資金を使用している場合など、社会的責任や説明責任を果たすためにも医療機関による地域との関わりや貢献度を評価することは必要であると考えられる。

今後の課題は、上記に述べた、医療機関の地域との関わりと貢献についてその種類や範囲に関する資料の収集が必要であり、医療機関の種類と地域の特性を整理して、医療機関の地域貢献性を評価できる指標の内容を実際に医療機関や地域の担当者などにヒアリングを行い、検討していくことである。

また、地域貢献の内容に、環境に対する取り組みを含めて行くかの検討が必要であり、その場合、SSBJ 設立準備委員会が公表する「気候関連開示（公開草案）産業別開示要求【医療提供（HC-DY）産業編】（2022年6月）なども参考にしながら評価のあり方を議論していかなければならないと考える。

（筆者は広島国際大学健康科学部医療経営学科講師）

謝辞

小菅正伸先生には学部・大学院でのゼミを含め、人生の大半に渡り、温かく、真摯な御指導を賜った。言葉では言い尽くせない深謝の思いで一杯である。

本研究の一部は以下の助成を受けている。

科学研究費助金基礎研究 C：「公立病院による地域医療への貢献度に関する実証分析－非財務指標を用いた評価－」（2023年から2025年）、課題番号：23L01718

参考文献

- [1] 厚生労働省 a、『病院の第三者評価（資料2）』
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000186606.pdf>
（2023年12月2日閲覧）
- [2] _____ b、『地域医療構想』<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000080850.html>（2023年12月2日閲覧）
- [3] 公益財団法人日本医療機能評価機構（2022）『病院機能評価 機能種別版評価項目 3rdG: Ver. 3.0 評価項目一覧（主な変更点） 一般病院1』
- [4] 坂口一樹・森宏一郎（2018）『医療による地域活性化：仮説構築に向けたケーススタディ』日医総研ワーキングペーパー、No. 411、日本医師会総合政策研究機構。
- [5] 東洋経済、『2023年版東洋経済 CSR 評価項目一覧 項目名・評価得点・ポイント』、<https://biz.toyokeizai.net/-/csr/briefing/2023/2023CSRRanking EvalPoints.pdf>（2023年12月1日閲覧）
- [6] 独立行政法人福祉医療機構『融資のポイントについて【医療貸付事業】（融資相談から事業完了）』、<https://www.wam.go.jp/hp/wp-content/uploads/h30-yuushipoint-iryuu.pdf>（2023年12月1日閲覧）
- [7] 日本医事新報社『地方創生の中の医療・介護：雇用提供と社会参加促進に効果あり？－医療経済フォーラム・ジャパン公開シンポジウムより』週刊日本医事新報、No. 4776、

- p. 14 (2015年11月7日発行)
- [8] 日本工業新聞『地域包括ケア×SDGs』を推進。岐阜県の「和光会グループ」が2021年11月より再エネ100%「アスエネ」と提携し環境に貢献』(2021年11月30日)
 - [9] 日本農村医学会 (2018)『メインシンポジウム：地域医療が地域の活性化に果たす役割』日農医誌、66巻6号 pp. 670-677.
 - [10] MIRAI PORT (協和キリン株式会社)「医療における『SDGs 実践』の可能性」
<https://www.mirai-port.com/people/347/> (2023年12月2日閲覧)
 - [11] Newsweek, “World’s Best Hospitals 2023”, <https://d.newsweek.com/en/file/465645/wbh-hospitals-2023.pdf> (2023年12月2日閲覧)
 - [12] 和光会グループ「「地域とともに。Smile 和光会2030」の取り組み」資料
<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/204404.pdf>
日本医療機能評価機構、<https://www.jq-hyouka.jcqh.or.jp/> (2023年11月26日閲覧)
 - [13] SSBJ 設立準備委員会事務局「気候関連開示 (公開草案) 産業別開示要求【医療提供 (HC-DY) 産業編】」(2022年6月)